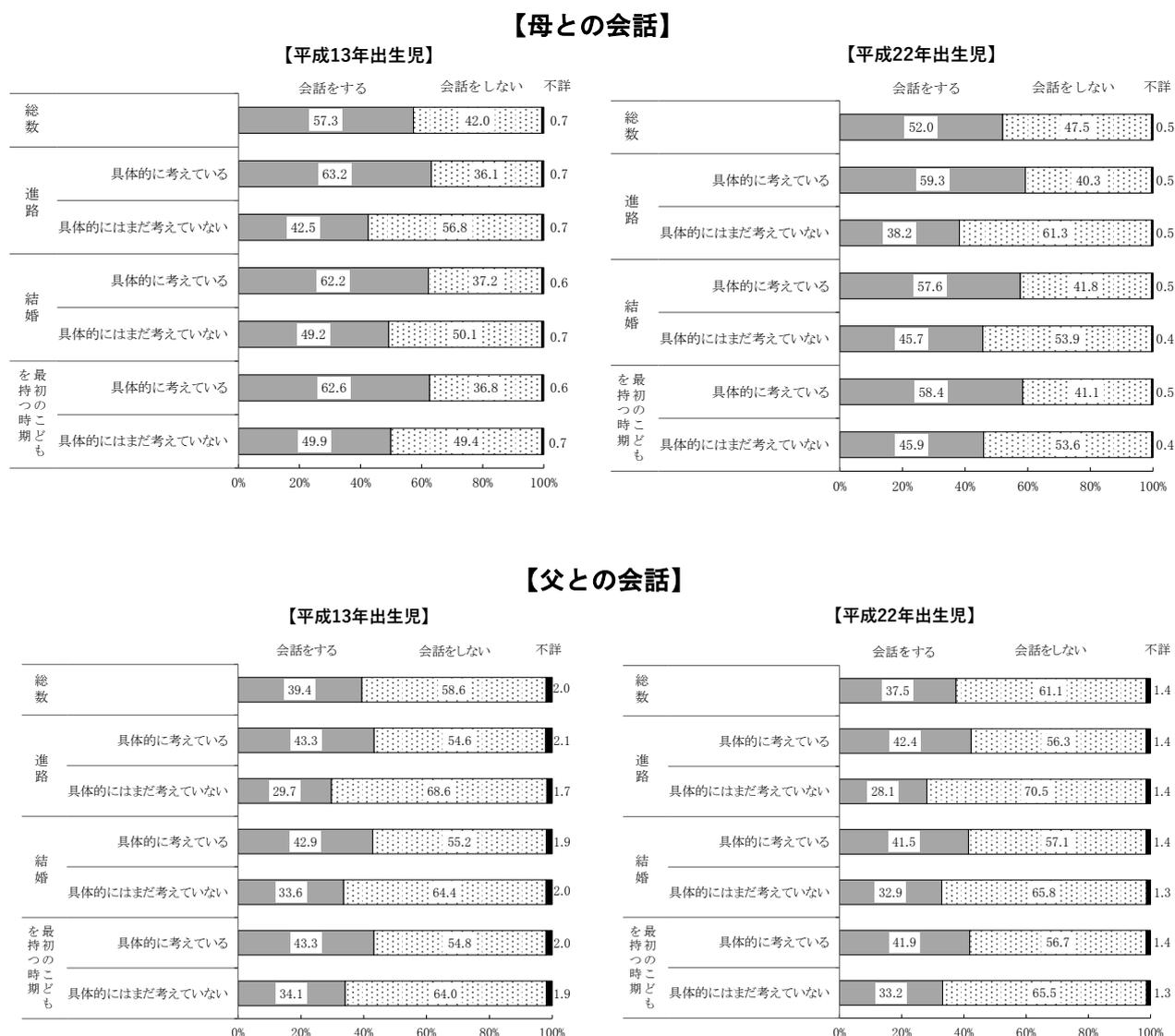


## 5 家庭での会話と子どもが考える将来

平成 22 年出生児について、将来や進路のことに関する母、父との会話の状況と子ども自身が考える将来をみると、将来を「具体的に考えている」は「具体的にはまだ考えていない」と比べて、「会話をする」の割合が高くなっている

平成 22 年出生児について、将来や進路のことに関する母、父との会話の状況と子ども自身が考える将来をみると、「進路」「結婚」「最初の子どもを持つ時期」のすべてにおいて、将来を「具体的に考えている」は「具体的にはまだ考えていない」と比べて、母、父とも「会話をする」（「よくする」「ときどきする」）の割合が高く、この傾向は平成 13 年出生児も同様である（図 10）。

図 10 母、父との会話（将来や進路のこと）の状況と  
子ども自身が考える将来・世代間比較



注：第 14 回調査で回答を得た者のうち、母との会話は母と同居している者（平成 13 年出生児 29,022、平成 22 年出生児 19,783）、父との会話は父と同居している者（平成 13 年出生児 26,150、平成 22 年出生児 18,283）を集計。